

## 伊方発電所周辺地域のお客さまへの訪問対話活動の実施結果について

今回の訪問対話活動については、伊方発電所3号機の再稼働への工程を進めるにあたり、地域の皆さまに更なるご理解を賜ることを目的に実施いたしました。

活動においては、従来同様「広聴」に軸足を置き、地域の皆さまのご意見・ご質問を丁寧にお聞きするとともに、当社からは熊本地震を踏まえ、伊方発電所の耐震対策をはじめとした安全対策や1号機の廃止などについてご説明いたしました。

概要は以下のとおりです。

### 1. 実施状況

- ・期 間 平成28年5月11日（水）～6月10日（金）[31日間]
- ・訪問戸数 27,915戸（在宅率：約52%）

地 域		期 間	戸 数
伊方町	旧伊方町、旧瀬戸町、旧三崎町	5/11～6/10	4,637戸
八幡浜市	旧保内町、旧八幡浜市	5/11～6/10	15,878戸
大洲市	旧大洲市（一部）、旧長浜町（一部）	5/31～6/10	2,661戸
西予市	旧宇和町（一部）、旧三瓶町	5/23～6/10	4,739戸
戸 数 の 合 計			27,915戸

- ・当社の参加人数 497名（のべ1,421人、従業員が2人1組で訪問）

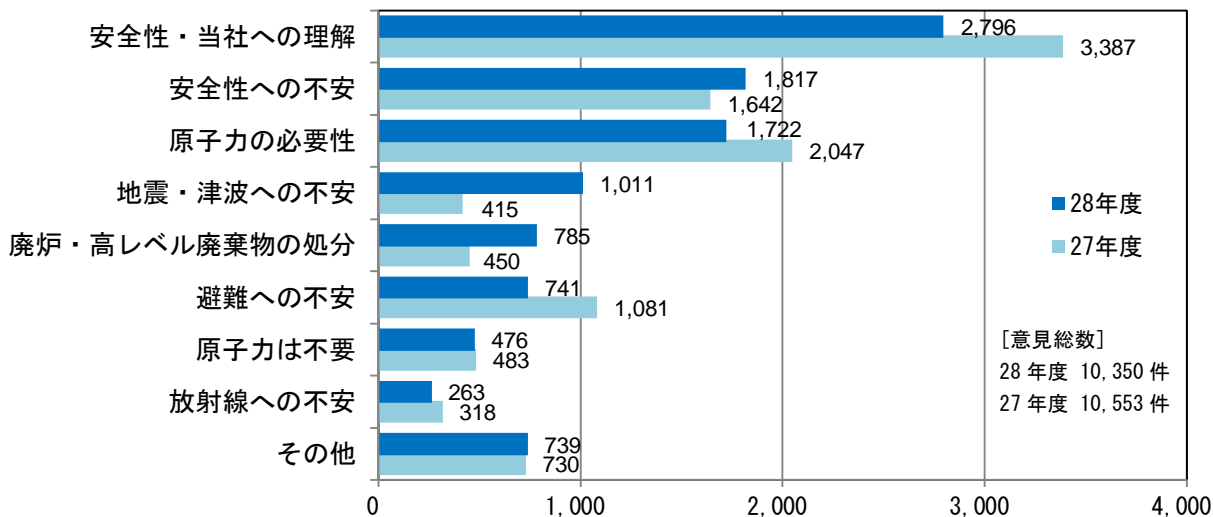
### 2. 実施結果

今回は、3号機の再稼働を控え地域の皆さまの関心が高まったことから、昨年仅次于、多数のご意見・ご質問をいただきました。その中には、原子力に関する不安を訴えるものもありましたが、当社の従業員が一つひとつ丁寧にお答えすることで、結果として、お客さまに一定のご理解をいただくケースが多くみられました。

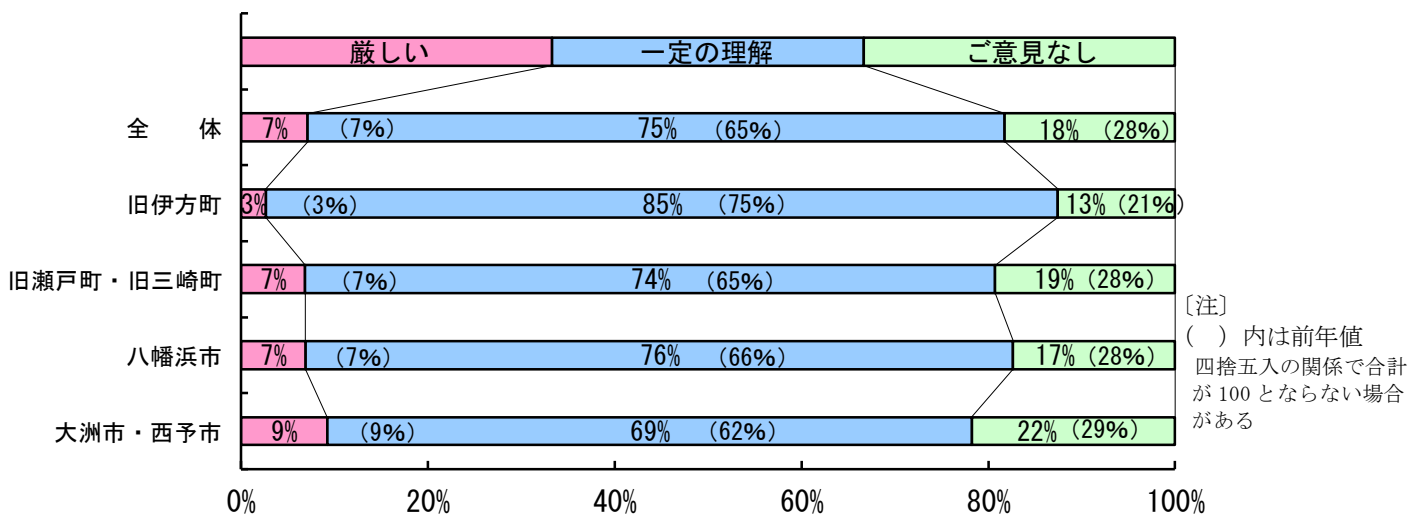
- ・具体的なお客さまのご意見としては、「安全性への不安」、「地震・津波への不安」が増加するとともに、「安全性・当社への理解」、「原子力の必要性」が減少した。これは、直近に発生した熊本地震の影響が大きいと考えられる。また、「廃炉・高レベル廃棄物の処分」に関するご意見も増加した。（図1）
- ・また、面談によるお客さまの印象としては、「厳しい」ご意見の方は昨年と同じ7%であるが、対話活動を通じ、お客さまとのコミュニケーションを密にした結果、「ご意見なし」が28%から18%に減少し、「一定の理解」を示された方が65%から75%に増加した。（図2）

当社としましては、今回の対話活動で頂いたご意見やご質問の一つひとつを重く受けとめ、原子力発電に関し更なるご理解をいただけるよう、引き続き、丁寧な理解活動、対話活動に全力を尽くしてまいります。

[図1] お客さまからの主なご意見



[図2] 面談によるお客さまの印象



[参考] お客さまからのご意見（抜粋）

[厳しいご意見]

- ・発電所の地震対策が不安。基準地震動 650 ガルでは低すぎる。
- ・地震が起きれば津波や崖崩れで逃げられない。船舶で大分への避難は非現実的。
- ・1号だけではなく、全基を廃炉にすべき。
- ・停電もなく電気は足りているので、原子力は不要ではないか。
- ・高レベル廃棄物の処分場が決まるまでは、再稼働すべきではない。 など

[一定の理解]

- ・熊本の地震で心配になったが、伊方発電所の耐震対策の説明を受け安心した。
- ・再稼働に賛成。地元の経済効果が大きいので原子力発電所は必要だ。
- ・原子力には反対だったが、説明を受け理解できた。
- ・伊方発電所と長く共存してきたが、これからも安全にお願いしたい。
- ・早く再稼働させて、安定供給を万全にしてほしい。 など